

第 67 回界面科学部会秋季セミナー

油化学に関連する幅広い産業分野において、表面あるいは界面を制御することは必要不可欠であり、新規物質や高付加価値を付与した製剤への開発につながります。本セミナーでは、様々な分野の専門家から界面科学に関わる製剤技術や物性評価などに関する最先端の話題を提供して頂いています。昨年度はコロナ禍により中止を余儀なくされましたが、本年度はオンラインでの講演会を企画致しました。参加費無料ですので、お気軽にご参加ください。

主催：日本油化学会 界面科学部会（関東）

会期：2021 年 12 月 9 日（木）13:00～15:00（12:45 入室開始）

場所：オンライン開催（ライブ配信、質疑あり）

参加費：無料

定員：80 名（定員になりしだい受付を終了します）

申込方法：以下のサイトからお申込みください。ご登録頂くと、当日の講演サイト（Zoom）に関するメールが届きます。申込締切は 11 月 30 日です。

受付サイト：<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZwuduutpj0iG9x096LO-uQZ6IExPfKHK3zO>

問合先：千葉科学大学薬学部薬学科 山下裕司 E-mail: yyamashita@cis.ac.jp

プログラム

13:00～14:00

両親媒性分子を用いた無機酸化物の構造制御

千葉工業大学工学部 柴田 裕史 氏

両親媒性分子は、分子集合体の形成、固体表面における特異的な吸着挙動など様々な特徴を有する。これらの特徴を無機酸化物の合成に活かすことで、得られる無機酸化物の構造を制御することが可能となる。本講演では、両親媒性分子が形成する分子集合体を構造規定剤として利用した多孔質無機酸化物の合成について概説する。また、両親媒性分子が固体表面に吸着することにより結晶成長の方向を決める現象（結晶成長規定剤）を利用した酸化亜鉛の合成についても概説する。

14:00～15:00

平衡から遠く離れた系の現象とその制御により開発されたサンスクリーン剤 SPF の新規 in vitro 測定法

慶応義塾大学理工学部 朝倉 浩一 氏

生命系には様々な動的挙動が自発的に発生しているが、人工的な化学系であっても、それが生命系と同様に平衡から遠く離れた状態にあると、様々な動的挙動が自発的に発生するようになる。特に界面が形成される過程において、このような動的挙動が発生すると表面の平滑性が失われてしまう。サンスクリーン剤の SPF を in vitro 測定する際には、平滑な表面を形成させる必要がある。本講演では、界面形成において発生する動的挙動を制御することで、サンスクリーン剤の SPF を高い正確性と再現性で in vitro 測定できるようになった技術を紹介する。